子宮がん

子宮がんとは子宮に発生する悪性腫瘍で、子宮頸がんと子宮体がんがあります。

子宮頸がん

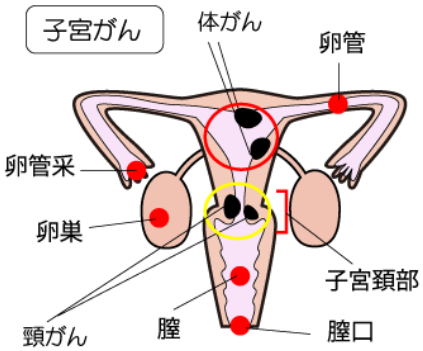
子宮頚部と呼ばれる子宮の出口より発生するがんで、※ヒトパピローマウイルス（HPV）の長期感染によって引き起こされます。しかし、実際に子宮頸がんになる人はウイルス感染した人のなかの一部にすぎません。年齢別にみた罹患率では 20 代後半から 40 歳前後に増加し、若い女性で罹患率が増加傾向にあります。

※ヒトパピローマウイルス（HPV）とは

子宮頸がんの原因となるウイルスで性交渉などの粘膜の接触によって感染するウイルスです。100 種類以上あり、子宮頸がんは高リスク型 HPV の長期感染によって引き起こされます。HPV に感染しても多くの場合、免疫力によって体内から排除されます。

子宮体がん

子宮体部に発生するがんです。年齢別に見た罹患率は 40 代後半から増加し、50 代から 60 代にピークとなります。多くの子宮体がんの発生には女性ホルモンのエストロゲン（卵胞ホルモン）が影響し、肥満、糖尿病、高血圧、出産歴がない、初経が早い、閉経が遅いことなどが危険因子となります。



症状

子宮頸がんはある程度進行してから、子宮体がんは初期段階から下記のような症状がみられます。

・不正出血（月経以外の出血）

・おりものの異常

（血液が混じる、進行すると水様性、膿性となり悪臭を伴う）

・下腹部痛

検査

◆内診検査◆

まず、外陰部に炎症や感染がないか確認します。次に膣鏡という器具を膣へ挿入し軽く広げた状態で膣や子宮の入り口を視診します。そして、片方の指を膣に挿入し反対の手で腹部を押しながら子宮や卵巣の大きさや形、硬さなどを調べます。

◆子宮頸部細胞診◆

膣鏡を挿入して細い専用のブラシで子宮頸部の細胞を擦り取ります。痛みはほとんどありませんが、場合により軽く出血することもあります。

◆超音波検査◆

細い超音波器具を膣に挿入して子宮や卵巣の状態を観察します。子宮や卵巣の大きさ、子宮筋腫や子宮内膜の異常、腫瘍の有無がわかります。

◆ヒトパピローマウイルス（HPV）検査◆

子宮頸部細胞診で採取した細胞を使って検査できます。

◆子宮体部細胞診◆

子宮体部の細胞を細いブラシで擦り取ります。個人差はありますが少量の出血と痛みがあります。

※月経周期により検査できないことがあります。